

ハイスレンドH形鋼^{*1}藤本 洋二^{*2} 志賀 勝利^{*3} 鈴木 實^{*4}

HISLEND-H Shape

Youji Fujimoto, Katsutoshi Shiga, Minoru Suzuki

1 ハイスレンドH形鋼の機能

Fig. 1に示すSRC (鉄骨鉄筋コンクリート構造) の鉄骨部材においては通常曲げモーメントに比してせん断力が比較的小さく、フランジの断面積に対してウェブ断面積は極端に少なくてすむ。またSRC構造においてはコンクリートによって鉄骨が拘束されているため幅厚比制限 (フランジの幅やウェブの高さに対する板厚の最小値の制限) が緩く、したがって、ウェブ厚ができるだけ薄いものが求められることになる。

従来のロールH形鋼はウェブ厚が厚くSRC構造用としては不経済であり、鋼板を溶接したH形鋼—ビルトアップH形鋼—が主に用

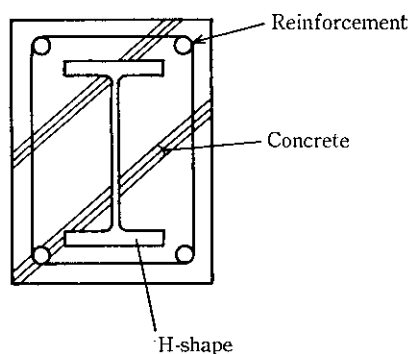


Fig. 1 Construction of SRC (steel and reinforced concrete) structure

いられてきた。このビルトアップH形鋼に代わるSRC構造用のH形鋼として当社は、1984年10月に比較的薄いウェブのH形鋼ハイスレンドHを販売開始した。

今回当社独自の技術開発によりさらにウェブの薄肉化を図り、従来の12シリーズ72サイズを14シリーズ158サイズとサイズレバートリーを拡充したものである。

ちなみにハイスレンド (HISLEND) とは high web, structural, light, economical, new-dimensional の各頭文字から合成した当社の商標である。

2 ハイスレンドH形鋼の特長

- (1) Table 1に示す158サイズの中から、多様な設計条件に応じて適切で経済的な断面を選ぶことができる。
- (2) 従来の圧延H形鋼では困難であったウェブ厚さの薄肉化を進めて、断面効率 (断面係数/単重) の向上と軽量化を可能とするとともに、ビルトアップH形鋼に比して同一機能で安価な材料を供給できる。
- (3) 寸法、形状誤差をJIS許容差 (G3192) より大幅に向上させ、ほぼ建築学会の鉄骨精度測定指針を満足するものとした。
- (4) 適用鋼種が豊富である。

〈問い合わせ先〉

	建材営業部	エンジニアリング事業部
東京本社	03 (597) 3985	03 (597) 4382
大阪営業所	06 (315) 4551	06 (315) 4680

Table 1 HISLEND-H shapes series

(mm)

Flange thickness Web thickness	9	12			14			16					19				22					25				28		
	6	8	7	10	9	8	12	11	10	9	8	12	11	10	8	13	12	11	10	9	14	13	12	15	14	13		
Nominal size																												
400×200	○		○			○				○	○			○	○			○		○		○			○	○		
450×200			○			○				○	○			○	○			○		○		○	○		○	○		
500×200		○				○				○				○				○	○			○			○			
500×250		○				○				○			○	○			○		○	○		○			○			
550×200		○		○		○				○			○	○				○	○	○		○			○			
550×250		○		○		○				○			○	○			○	○	○	○		○			○			
600×200		○		○		○				○			○	○			○	○	○	○		○			○			
600×250						○		○				○		○		○		○	○	○	○			○	○			
650×200		○		○		○			○				○	○			○	○	○	○		○			○			
650×250						○				○				○			○	○	○	○		○			○			
700×200		○				○	○	○		○			○	○			○	○	○	○		○			○			
700×250						○	○			○			○	○			○		○	○		○			○			
750×200		○				○	○	○		○			○	○			○	○		○		○			○			
750×250						○	○			○			○	○			○	○		○		○			○			

*1 昭和63年8月4日原稿受付

*2 水島製鉄所 条鋼圧延部条鋼技術室 主査 (掛長)

*3 東京本社 鋼材技術部 主査 (部長)

*4 エンジニアリング事業部 建築技術部開発設計室 主査 (課長)